

概況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成11年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場307日、大田市場309日、板橋市場255日、葛西市場308日で、前年より北足立市場、板橋市場はそれぞれ2日減、大田市場、葛西市場はそれぞれ1日減となった。

総取扱実績は、数量については部類によって単位が違うので算出できないが、金額は810億3959万7千円を示した。この金額を前年と比較すると、4.8%（40億9194万5千円）の減少となった。また、1日あたりの取扱高についてみると、2億7062万円で前年比4.5%（1285万2千円）減という実績を示した。

(2) 部類別取扱高

- ①切花 総取扱数量は8億2771万9千本で前年比1.7%（1345万3千本）増、金額は507億763万4千円で8.4%（46億6914万7千円）減であった。
- ②切葉 総取扱数量は6306万5千枚で前年比2.6%（159万7千枚）増、金額は17億1141万6千円で1.4%（2467万4千円）減であった。
- ③切枝 総取扱数量は1993万8千束で前年比5.3%（100万9千束）増、金額は36億4042万8千円で7.8%（3億966万7千円）減であった。
- ④鉢花 総取扱数量は2798万4千鉢で前年比3.8%（101万8千鉢）増、金額は89億5708万7千円で2.5%（2181万円）増であった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は205万3千鉢で前年比1.8%（3万6千鉢）増、金額は49億8992万1千円で5.4%（2億5599万2千円）増であった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は962万5千鉢で2.0%（19万1千鉢）増、金額は40億3536万円で3.4%（1億4091万9千円）の減であった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は393万6千鉢で前年比5.8%（21万6千鉢）増、金額は19億681万4千円で2.9%（5663万9千円）減であった。
- ⑧苗木 総取扱数量は334万8千箱で前年比19.3%（54万2千鉢）増、金額は45億9442万9千円で17.2%（6億7350万6千円）増であった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は74万9千箱で前年比86.9%（34万8千箱鉢）増、金額は4億9650万7千円で7.2%（3849万6千円）減であった。

部類別平均価格の推移(過去3年)

(単位：円、%)

	切花	切葉	切枝	鉢花	らん鉢	観葉植物	観賞樹	苗木	その他
9年平均価格	64	29	229	320	2,371	486	573	1,458	1,307
10年平均価格	68	28	209	324	2,347	443	528	1,398	1,336
11年平均価格	61	27	183	320	2,431	419	484	1,372	663
11年対前年比	89.7	96.4	87.6	98.8	89.7	84.6	91.7	98.1	49.6

(3) 市場別取扱高

① 北足立市場

総取扱金額は122億8501万8千円で、前年比7.8%（10億4103万3千円）の減少となった。

部類別に見ると、数量、金額ともに前年を上回ったのは苗木とその他花きで、前者の数量が3.4%（9千箱）、金額が8.4%（3262万3千円）増、後者の数量が約6倍、金額が1.7%（90万8千円）増となった。数量は前年を上回り、金額は下回ったのは切枝で、数量が10.8%（45万9千束）の増加、金額が12.5%（7969万1千円）の減少となった。切花と切葉は数量が前年とほぼ同じだったものの、金額は切花で10.2%（9億2165万3千円）減、切葉で8.4%（2350万5千円）減少した。逆に鉢花は数量が10.5%（40万3千鉢）増加し、金額は前年とほぼ同額であった。また、らん鉢は数量が4.2%（1万6千鉢）減少したが、金額は前年とほぼ横ばい。数量、金額ともに前年を下回ったのは、観葉植物と観賞樹で、それぞれ数量が13.6%（14万2千鉢）、5.6%（3万鉢）減少し、金額も5.3%（2486万5千円）、7.6%（2158万9千円）の減少であった。

② 大田市場

総取扱金額は473億2060万円で、前年比1.9%（9億2647万円）の減少となった。

部類別に見ると、もっとも大きく伸びたのが苗木で数量が19.4%（36万5千箱）、金額は19.7%（5億812万9千円）の二桁増となった。切葉、鉢花、らん鉢は数量がそれぞれ4.4%（140万5千枚）、7.5%（112万5千鉢）、6.7%（7万7千鉢）、金額は1.7%（1684万円）、7.0%（3億5226万7千円）、8.9%（2億5891万3千円）とそれぞれ前年を上回った。数量が前年を上回り、金額が下回ったのは切花、切枝、その他花きで数量では3.5%（1503万3千本）1.7%（14万3千束）18.3%（1万3千箱）増、金額では6.5%（19億5165万9千円）、3.4%（7561万8千円）5.6%（2148万円）減となった。観葉植物、観賞樹は数量が7.2%（46万6千鉢）、9.4%（23万4千鉢）増加したが、金額はほぼ横ばいであった。

③ 板橋市場

総取扱金額は116億6522万4千円で前年比9.8%（12億7281万2千円）の減少となった。

部類別に見ると、大幅に伸びたのが苗木で数量が19.9%（2万4千箱）、金額が23.1%（3711万2千円）と二桁増を示した。また、らん鉢と観葉植物は数量が2.2%（3千鉢）、12.9%（5万6千鉢）、金額が4.8%（1739万2千円）、7.2%（1327万4千円）とそれぞれ前年を上回った。一方、切枝とその他花きは数量が19.5%（51万5千束）、4.2%（401箱）増加し、金額が16.0%（1億1614万8千円）、1.0%（42万3千円）減少した。逆に観賞樹は数量が2.3%（2千鉢）減少し、金額は4.6%（2900万円）増加した。なお数量、金額ともに前年を下回ったのは切花、切葉、鉢花で数量が2.5%（389万4千本）、2.2%（26万枚）、10.7%（21万2千鉢）それぞれ減少し、金額も11.4%（12億50万2千円）、4.5%（1300万1千円）、2.2%（1341万6千円）減少した。

④ 葛西市場

総取扱金額は97億6875万5千円で前年比8.0%（8億5162万9千円）の減少となった。

部類別に見ると、数量・金額ともに大きく増加したのが苗物で、数量は27.6%（14万4千箱）、金額は12.1%（9564万3千円）という数字を示した。切花、切葉、観賞樹は数量がそれぞれ2.2%（214万2千本）、4.9%（42万2千枚）、2.3%（1万4千束）前年を上回り、金額は10.2%（5億9533万3千円）、2.5%（500万8千円）、10.4%（3383万9千円）とそれぞれ前年を下回った。数量、金額とも前年を下回ったのは切枝、鉢花、らん鉢で数量は2.9%（10万9千束）、4.9%（29万9千鉢）、8.0%（2万8千鉢）、金額は10.0%（3821万円）、6.8%（1億1920万3千円）、2.8%（1859万9千円）とそれぞれ減少した。また、観葉植物は数量が12.6%（18万9千鉢）、金額が20.0%（1億1957万8千円）と二桁減となった。さらにその他花きは数量が5.5%（1万4千箱）減、金額が32.7%（1750万1千円）と大きく減少した。

（4）卸売業者別取扱高

①（株）第一花き

総取扱金額は91億2275万4千円で、前年比8.1%（8億443万2千円）の減少となった。

部類別に見ると、数量がもっとも伸びたのがその他花きで、数量は8.6倍（33万9千箱増）、金額は5.4%（238万4千円）増であった。また、苗物は数量が3.1%（6千箱）、金額が21.7%（5232万4千円）増加した。切葉、切枝は数量が2.5%（17万9千枚）、17.9%（52万3千束）増加し、金額が7.2%（1528万7千円）、8.6%（4088万7千円）それぞれ減少した。逆にらん鉢は数量が8.7%（1万6千鉢）減少し、金額は1.4%（630万7千円）と若干増加した。一方、切花、鉢花、観賞樹はそれぞれ数量が1.2%（126万5千本）、4.4%（10万鉢）、8.4%（2万5千鉢）減少し、金額も10.7%（7億8311万9千円）、2.4%（1905万4千円）、1.0%（148万2千円）それぞれ前年を下回った。また、観葉植物は数量が20.0%（10万3千鉢）と大きく減少し、金額は2.6%（561万7千円）減少した。

②（株）東京花き

総取扱額は31億6226万4千円で、前年比7.0%（2億3660万1千円）の減少となった。

部類別に見ると、鉢花が好調で数量が32.5%（50万3千鉢）と大幅に増加し、金額も3.2%（1750万6千円）増加した。切花と苗物は数量が5.0%（143万7千本）、3.8%（4千箱）増加し、金額は8.0%（1億3853万3千円）、13.4%（1970万円）減少した。また、その他花きは数量が27.2%（8千箱）と大幅に増加し、金額が13.5%（147万6千円）と二桁の減になった。らん鉢は数量が前年とほぼ同量、金額は2.2%（802万1千円）と若干減少した。一方、切葉、観葉植物、観賞樹は数量が5.9%（14万9千枚）、7.3%（3万8千鉢）、2.0%（5千鉢）と減少し、金額が12.0%（821万8千円）、7.6%（1924万8千円）、15.8%（2010万6千円）と前年を大きく下回った。さらに、切枝は数量が4.9%（6万4千束）減で、金額は24.3%（3880万4千円）と大幅に落ち込んだ。

③（株）大田花き

総取扱金額は254億9533万4千円で、前年比4.7%（12億6087万3千円）の減少となった。

部類別に見ると、苗物は数量が26.3%（6万3千箱）、金額が23.6%（7443万5千円）と大幅な増加となった。切葉の数量が2.5%（56万3千枚）増、金額が2.7%（1876万5千円）であったのを始め数量、金額とも前年を上回ったのは鉢花、らん鉢、観葉植物で数量がそれぞれ10.4%（24万9千鉢）、6.0%（1万5千鉢）、16.9%（14万4千鉢）増、金額はそれぞれ、6.9%（6340万9千円）、11.6%（1億950万3千円）、2.9%（905万2千円）増となった。逆に数量、金額とも前年を下回ったのは観賞樹で数量が1.1%（3千鉢）、金額が4.8%（770万7千円）減となった。切枝は数量が前年とほぼ同量、金額が2.7%（3633万1千円）減、切花は数量が3.7%（1129万4千本）増、金額が6.6%（14億3383万円）減となった。また、その他花きは数量が8.5%（2千箱）増で、金額が34.6%（5816万9千円）と大きく減少した。

④（株）フラワーオークションジャパン

総取扱金額は218億2526万6千円で、前年比1.6%（3億3440万3千円）の増加となった。

部類別で見ると、苗物とその他花きは数量が18.4%（30万3千箱）、23.3%（1万1千箱）増、金額が19.1%（4億3369万4千円）、17.1%（3668万8千円）増と二桁の伸びを示した。数量、金額とも前年を上回ったのは鉢花、らん鉢で数量はそれぞれ6.9%（87万7千鉢）、6.9%（6万2千鉢）増、金額はそれぞれ7.0%（2億8885万8千円）、7.7%（1億4941万1千円）増となった。また、観賞樹は数量が10.6%（23万6千鉢）と二桁増、金額は0.3%（359万5千円）と若干増であった。一方、切花と切枝は数量が3.1%（373万9千本）、4.9%（14万7千束）増加し、金額が6.4%（5億1782万9千円）、4.6%（3928万8千円）減少した。切葉と観葉植物は数量が8.9%（84万2千枚）5.8%（32万2千鉢）増で、金額は0.7%ずつ（192万5千円、1880万2千円）減少した。

⑤（株）東日本花き

総取扱金額は70億175万9千円で、前年比7.8%（5億9236万1千円）の減少となった。

部類別に見ると、苗物は数量が19.8%（2万4千箱）、金額が23.1%（3707万1千円）と大きく増加した。また、らん鉢、観葉植物は数量がそれぞれ6.1%（6千鉢）、12.3%（5万3千鉢）増、金額がそれぞれ10.4%（2662万円）、7.0%（1305万6千円）増となった。切葉も数量が1.9%（11万9千枚）、金額が0.5%（85万7千円）と微増した。一方、切枝は数量が23.2%（53万7千束）の二桁増、金額は14.6%（5410万1千円）の二桁減となり、逆に観賞樹は数量が2.7%（3千鉢）減、金額が4.3%（269万5千円）増となった。切花、鉢花は数量がそれぞれ2.8%（241万6千本）、10.7%（21万2千鉢）減、金額がそれぞれ10.4%（6億167万4千円）、2.2%（1343万2千円）減となった。また、その他花きは数量で14.7%（500箱）、金額で19.6%（345万2千円）と大幅な減少を示した。

⑥ (株)板橋花き

総取扱金額は46億6346万5千円で、前年比12.7% (6億8045万1千円)の減少となった。

部類別に見ると、観葉植物が数量で昨年の20倍となり、金額も15倍と激増した。また、鉢花、観賞樹、その他花きは数量が39.9% (534鉢)、42.1% (354鉢)、14.7% (907箱)、金額が2.2% (2万円)、32.0% (20万5千円)、11.5% (302万9千円)と軒並み大幅増となった。さらに苗物は数量が約2倍、金額が17.6% (4万2千円)と大きく増加した。一方、切花の数量が2.1% (147万8千本)、金額が12.7% (5億9882万8千円)減少したのを始め、切葉、切枝、らん鉢は数量がそれぞれ7.3% (37万9千枚)、6.9% (2万2千束)、19.1% (4千鉢)、金額もそれぞれ、11.0% (1385万8千円)、17.6% (6204万7千円)、8.8% (922万8千円)と大きく前年を下回った。

⑦ (株)葛西花き

総取扱金額は52億2456万8千円で、前年比11.7% (6億9058万9千円)減少となった

部類別に見ると、数量が前年を上回り、金額が前年を下回ったのは切花で、数量が1.7% (114万6千本)増、金額が11.2% (4億8273万円)減となった。また、観賞樹は数量が14.3% (1万9千鉢)と二桁増、金額が11.4% (814万円)と二桁減となった。逆にその他花きは数量が4.7% (1万1千箱)減少し、金額は19.2% (373万4千円)増加した。一方、切葉、らん鉢は数量が0.4% (2万1千枚)、8.5% (7千鉢)減少し、金額が3.3% (441万4千円)、4.9% (966万7千円)減少した。また、切枝、鉢花、苗物は数量がそれぞれ7.0% (20万9千束)、4.4% (8万5千鉢)、7.7% (5千箱)減、金額がそれぞれ12.4% (3230万6千円)、11.5% (6180万1千円)、11.5% (1689万2千円)と二桁減となった。観葉植物は数量が22.6% (16万4千鉢)、金額が32.8% (7837万3千円)と大幅減となった。

⑧ (株)江戸川花き

総取扱金額は45億4418万7千円で、前年比3.4% (1億6104万1千円)の減少となった。

部類別に見ると、ここでも苗物が数量で32.0% (14万8千箱)、金額で17.5% (1億1253万4千円)と大幅な増加を示した。数量が前年を上回り、金額が下回ったのは切花、切葉、切枝で、数量がそれぞれ3.5% (99万6千本)、14.8% (44万3千枚)、12.9% (10万束)増加し、金額はそれぞれ7.3% (1億1260万3千円)、0.9% (59万4千円)、4.9% (590万4千円)減少した。一方、鉢花が5.2% (21万3千鉢)減少し、金額が4.7% (5740万2千円)減少したのを始め、らん鉢、観葉植物、観賞樹は数量がそれぞれ7.9% (2万1千鉢)、3.2% (2万5千鉢)、1.1% (5千鉢)減少し、金額が1.9% (893万3千円)、11.5% (4120万5千円)、10.1% (2569万8千円)減少した。また、その他花きは数量が48.4% (2千箱)と半減、金額は1/3 (2123万6千円減)となった。

2. 月別市況

1月

「切花」

取扱数量は前月比29.1%減、前年比0.7%増、平均価格は前月比10円安、前年比6円高となった。

入荷は、寒波による定植時期のずれ込みのため中旬まで少ない状態が続いた。

相場は、白色系が品不足と業務需要が多かったこともあり、強保合。その他は品質低下及び小売りが低調のため、弱保合。

主要品目別では、輪菊が品薄高。特に白色系は高騰した。小菊は後半から品質が回復し、保合となった。バラは成人式などのイベントで一時的に動いたが、年末の買い疲れから全般的に弱保合。チューリップは中旬まで品薄高だったが、入荷回復とともに弱保合。スイトピーは潤沢入荷も品質が悪く弱保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比27.4%減、前年比11.7%増、平均価格は前月比302円安、前年比17円高となった。

入荷は、観葉植物が少なかった以外は順調であった。

相場は、園芸向けの鉢花の小鉢が天候がよかったこともあり活発な取引で強保合。その他は、総じて弱含みとなった。

主要品目別では、サイネリアが上旬に品薄高。中旬以降は入荷が回復して保合。小鉢は月を通してしっかりした取引であった。カランコエ及びエリカは潤沢入荷も引き合い強く保合。プリムラ類は主に園芸向けとして中旬まで強保合。以後、買い気は一段落したが天候に恵まれて保合で推移した。ファレノプシスは、成人式の需要を中心とした取引で保合。

2月

「切花」

取扱数量は前月比14.4%増、前年比2.5%減、平均単価は前月比8円安、前年比2円安となった。

入荷は、品薄だった品目が本格出荷により増え始め、昨年並みとなった。

相場は、一部の品目を除き、バレンタインや月末の節句需要が例年ほど積極的な動きを見せなかったため弱含みとなった。

主要品目別では、輪菊は品薄傾向により上旬まで高値、中旬以降も好調な取引となった。小菊は沖縄産の品質が良化、相場も安定した。バラは期待されたイベントも盛り上がり欠け、品種間にばらつきもあり、弱保合で推移した。スイトピーは各産地のピークを迎えて潤沢に入荷したもののフリージア等と競合し、弱含み。菜の花は、潤沢入荷で積極的な動きなく、低調な取引となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比12.9%増、前年比1.5%増、平均単価は前月比39円安、前年比8円安となった。

入荷は、観葉植物が約1割減となった以外は順調であった。

相場は、中旬まで鉢花、苗物を中心に動きよく保合。下旬から降雨等による肌寒さの影響から引き合い鈍り軟調となった。

主要品目別では、サイネリアは潤沢入荷も中旬までは保合。以後、月末にかけてじり安となった。ベゴニア類・プリムラ類は入荷はますますだったが、単価的にいまひとつ。後半から徐々に上向いてきた。ファレノプシスは入荷量は増えたが動きは鈍く、弱保合のまま。ポトスはシーズン直前ということもあり、入荷量も価格も低めで推移した。

3月

「切花」

取扱数量は前月比70.6%増、前年比8.4%増、平均価格は前月比2円安、前年比13円安となった。

入荷は、前進開花のために上旬を中心に潤沢感があった。

相場は、潤沢入荷の影響で彼岸にも単価アップはなかった。また、降雨の影響で消費が鈍り、下旬まで弱い展開となった。

主要品目別では、輪菊が前半品薄感がありしっかりした相場が続いたが、彼岸後から潤沢な入荷となり相場も低迷した。小菊は前進出荷となったが、安定相場。バラはブライダルや卒業式といったイベント需要に支えられ、強保合。チューリップは入荷が潤沢だったため、相場は低迷した。スイトピーは入荷は順調で需要もあり、保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比38.4%増、前年とほぼ同量、平均価格は前月比7円安、前年比41円安となった。

入荷は、前半は増加したが、中旬から徐々に落ち着いた。

相場は、らん鉢がギフト等の業務需要の活発化で上位等級品は強保合だったものの、中・下位等級品では弱保合となった。観葉植物は上旬・中旬とも保合、月末は荷がだぶついて弱保合。苗物は悪天候の影響で月を通して動きが悪かった。

主要品目別では、ポトスが悪天候のため軟調ぎみであったが、中旬から上向いてきた。ファレノプシスは年度末における業務需要で高級品の動きがよかった。サイネリアは比較的品質にも恵まれ、安定した相場となった。ベゴニア類は価格の伸びはあまり見られなかった。ゼラニュームは例年より入荷が少なめだったため、安定した取引となった。

4月

「切花」

取扱数量は前月比33.7%減、前年比0.9%減、平均価格は前月比1円高、前年と同額であった。

入荷は、全般的にやや少なめで、雨の影響を受けて品質を落としたものも多かった。

相場は、需要のばらつきによってまちまちとなったが、洋花類は入学式・入社式などの需要に支えられて堅調であった。

主要品目別では、菊類は業務関係の動きが鈍く、これと言った変化は見られなかった。小菊は潤沢な入荷により価格は低迷した。バラはイベント需要で引き合い強く安定取引も中旬以降弱含み。スプレーカーネーションは入荷は順調で、相場は中旬頃まで低迷した。ガーベラは月を通して潤沢入荷で弱保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比7.5%増、前年比1.3%減、平均価格は前月比46円高、前年比25円高となった。

入荷は順調で、特に苗物は品種もかなり増加した。

相場は、週末の悪天候の影響で苗物が低迷。影響を受けなかった鉢花とらん鉢は全体的に引き合い強く堅調。観葉植物は依然低調な相場が続いている。

主要品目別では、カーネーションは品薄感の中、例年にない盛り上がりを見せた。ゼラニュームは入荷が順調で価格もまずまず。ファレノプシスは高級品を中心に引き合い強く、高めに推移した。ポトスは数量は少なかったが、単価的には昨年並み。ハイドラングアは昨年並みの入荷で、相場は月を通して安定していた。

5月

「切花」

取扱数量は前月比 2.2 % 増、前年比 3.7 % 減、平均価格は前月比 5 円安、前年比 12 円安となった。

入荷は、母の日需要の代表であるカーネーションが少なめであったものの、全体的には昨年並みとなった。

相場は、上旬は好調であったが、潤沢感の中で取引されたため、中旬以降は例年になく低調なものとなった。

主要品目別では、輪菊は業務需要の動きが悪く、低調であった。バラは母の日需要で強気配もその後は低迷した。カーネーションは赤やピンク系を中心に強保合も中旬から安値の展開。スプレーカーネーションは中旬から買い控えられて低調。ガーベラは潤沢入荷となり、価格は下落した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 8.7 % 増、前年比 1.3 % 増、平均単価は前月比 38 円高、前年比 28 円高となった。

入荷は、鉢花、苗物がかなり増加したが、観葉植物、らん鉢がやや減少した。

相場は、観葉植物を除き好調。苗物も入荷が多かったにもかかわらず価格は安定した。

主要品目別では、カーネーションが品質や品種、花のすすみ具合によってかなり価格差があった。ベゴニア類は母の日需要で安定した価格で推移した。ファレノプシスは手頃な価格帯の動きが好調。ポトスは数量が少なかったが、価格は品物によってまちまち。ハイドランジアは需要期が出荷の谷間になってしまい、高値で推移した。

6月

「切花」

取扱数量は前月比 12 % 減、前年比 2.9 % 減、平均価格は前月比 4 円安、前年比 2 円安となった。

入荷は、昨年並み。前半は天候がよく前進傾向であったが、中旬から梅雨に入りやや少なくなった。

相場は、供給が需要を上回り、全体的に弱含み。

主要品目別では、輪菊の色物が品薄高となった。バラは昨年並みの入荷で例年になく安値。スプレーカーネーションは上旬は保合であったが、それ以降は 1～2 割安の展開。ユリ類は、業務需要に支えられて堅調に推移した。トルコキキョウは、暖地ものの減少と高冷地ものの遅れで上旬が端境期となったが、ブライダル需要の中心品目として月を通して安定していた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 27.6 % 減、前年比 7.6 % 増、平均価格は前月比 48 円安、前年比 36 円安となった。

入荷は、鉢花の増加が著しかったが、苗物はそれ以上の実績となった。観葉植物は昨年並みであった。

相場は、らん鉢以外で単価の伸び悩みが目立った。

主要品目別では、日々草は前半入荷が多かった割に単価は安定していたが、入梅と共に下落した。ベゴニア類は昨年並みの入荷も買い控えのため価格は低迷した。ハイビスカスは昨年よりも大幅な入荷増となり、単価は下落した。ファレノプシスは若干高めに推移した。ポトスは動きが鈍く、単価も低めであった。

7月

「切花」

取扱数量は前月比 15.5 % 増、前年比 4.8 % 減、平均価格は前月比 1 円高、前年比 2 円安となった。

入荷は、主力商品の輪菊が白のみ前年を上回った。その他は 6 月に前進開花したため、減少した。

相場は、盆需要により上旬は菊類を主体に仏花商材が堅調に推移したが、盆明けと同時に全体的に動きが少なくなった。

主要品目別では、輪菊は盆需要で活発な取引。スプレーカーネーションは前進開花で潤沢な入荷となり、弱含み。バラは、末端消費の減退と業務需要の減少により、低調な取引となった。鉄砲ゆりは盆需要に伴って引き合いが強かった。トルコキキョウは月を通して安定した入荷となり、価格も安定していた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 18.1 % 減、前年比 10.5 % 増、平均価格は前月比 38 円高、前年比 4 円安となった。

入荷は、苗物を中心に増加し、前年を大きく上回った。

相場は、夏場に入ったことで全体的に動きが鈍く、弱保合。

主要品目別では、ベゴニア類は大幅な入荷増にもかかわらず、価格は安定。インパチェンスは主力商品が暑さに弱く、弱含み。日々草は前半好調であったが、後半は暑さのために花が少なく全面安となった。ハイビスカスは入荷が大幅に増えたが、人気がなく軟調。ファレノプシスは中元需要により高級品を中心に動きが良かった。ポトスは数量は昨年並みも単価は低めに推移した。

8月

「切花」

取扱数量は前月比 4.3 % 減、前年とほぼ同量、平均価格は前月比 2 円高、前年比 7 円安となった。

入荷は、主力商品の菊類を始めカーネーション、ユリ類などは前進開花で盆需要期まで潤沢であった。しかし、下旬にかけて天候による影響が出始め、品目により入荷のばらつきが出てきた。

相場は、盆の 3 日目くらいに盛り上がりを見せたが、その後は伸び悩んだ。

主要品目別では、輪菊と小菊は上・中旬と潤沢な入荷と順調な取引であったが、下旬は小売りの動きが鈍かった。りんどうは産地が例年になく暑さに見舞われて開花が遅れ、品薄感の強い動きが続いた。ゆり類は入荷増と暑さによる品質低下で軟調。スプレーカーネーションは盆需要で若干動きがあったものの、全体的には弱保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比 36.6 % 減、前年比 6.6 % 減、平均単価は前月比 49 円安、前年比 4 円安となった。

入荷は、厳しい暑さのために入荷量、品種数、品質ともに悪く、前年実績を大幅に下回った。

相場は、全体的に低調であったが、らん鉢は入荷減により高めに推移した。

主要品目別では、日々草が大幅な入荷減となり品薄高。カラコエは入荷量が少なく、保合。ハイビスカスは 2 割程度の入荷減となったが、品質が劣るものも多く、単価は安めに推移した。ポトスは入荷減で若干品薄高傾向。りんどうは入荷増に伴い価格は下落した。菊類は品種によって差はあるものの、全般的にしっかりしていた。

9月

「切花」

取扱数量は前月比23.1%増、前年比6.6%増、平均単価は前月比6円高、前年比6円安となった。

入荷は、前進開花したものと高温により遅れていたものが入り交じった形となった。

相場は、菊類及びりんどうが彼岸需要でしっかりしていたが、下旬から遅れていたものの出荷がピークを迎え、値を下げた。洋花類は、ブライダル商材を中心にますますであった。

主要品目別では、輪菊が前半は彼岸需要で堅調であったが、後半は入荷増で下落。小菊は、前半強保合だったが、後半は大量入荷で反落した。スプレーカーネーションは入荷量は少なかったものの、品質低下で値は出なかった。りんどうは若干遅れていたものの彼岸には潤沢入荷となり、品質に応じた価格になった。洋らん類は高温のため入荷量が減少し、品薄高が続いた。

「鉢物」

取扱数量は前月比64.8%増、前年比1.4%減、平均価格は前月比14円高、前年比3円安であった。

入荷は、夏場の高温のため集荷が思うようにいかず、前年実績を下回った。

相場は、比較的好調な滑り出しを見せたが、中旬に中だるみし、下旬にかけて徐々に戻した。

主要品目別では、菊類が品種によって差はあるものの、全体的に弱含み。カランコエは敬老の日向けに引き合いが強かったが、以降は軟調。りんどうは残暑のため入荷が少なめで、価格はますます。ポトスは中・大鉢が比較的安定していた。ファレノプシスは上旬は品薄と需要期が重なり、引き合いが強かった。

10月

「切花」

取扱数量は前月比27.2%減、前年比6.3%増、平均価格は前月比10円高、前年比13円安となった。

入荷は、夏場の高温、九州地方の日照不足、台風18号などの影響により、産地によってまちまちとなった。

相場は、比較的しっかりしていたが、前年が高値相場であったため、割安感があった。

主要品目別では、輪菊が前年ほどではなかったものの、白色系の主力品種が品薄高。色物もますますであった。スプレー菊は夏場の高温のため品質が悪かった。バラは宴会需要で強含み、スプレーバラは品薄高。カトレアは生育遅れの入荷がずれ込んだため入荷量が増加し、単価安。かすみ草は台風の影響を受けて品薄高。ガーベラはブライダル需要等により月を通して安定した取引となったが、前年のような高値にはならなかった。

「鉢物」

取扱数量は前月比15.2%増、前年比1.2%増、平均価格は前月と同額、前年比13円安となった。

入荷は、らん鉢はやや少ないものの比較的順調で、前年並みの水準となった。

相場は、鉢花は伸び悩んだが、らん鉢と苗物は好調であった。

主要品目別では、菊類は品種数が増加したものの、単価は余り伸びなかった。ジュリアンは割安感から荷動きは好調。カランコエはポット物に人気が集まった。シャコバサボテンは盛り上がり欠けた厳しい動き。アザレアは入荷が少な目で堅調な相場となった。ポトスは入荷量が前年を大きく上回り、単価を下げた。

11月

「切花」

取扱数量は前月比2.7%減、前年比8.9%増、平均価格は前月比9円安、前年比23円安となった。

入荷は、夏場の高温の影響が続き、前進開花しているものと遅れているものに分かれた。

相場は、入荷の状況を反映してまちまちとなったが、全体的には弱い展開となった。高値相場であった昨年とは比較にならないほどの価格となったものもあった。

主要品目別では、輪菊が前進開花で入荷が上旬に集中したため、相場は低迷した。スプレー菊は前月からの市況の悪さが尾を引き、きわめて低調。スプレーカーネーションは、入荷が安定していたため、保合相場。バラは、宴会需要の落ち着きとともに弱含みの展開。ガーベラはブライダル需要に支えられ、安定した取引となった。洋らん類は業務需要で安定した品種もあったが、総じて弱含み。

「鉢物」

取扱数量は前月比15.1%増、前年比12.9%増、平均価格は前月比82円高、前年比38円安となった。

入荷は、らん鉢と観葉植物がやや少ないものの、そのほかは順調であった。

相場は、入荷に引きずられる形で、らん鉢と観葉植物は品薄高、そのほかは低迷した。

主要品目別では、菊類が品種数が増加し、例年になく軟調な展開。シクラメンは手頃な大きさのものを中心に人気を集め、商品の出来に応じた相場となった。プリムラ類は割安感からジュリアン、ポリアンタが好調な取引となった。シャコバサボテンは入荷が潤沢で、品質の良し悪しに係わらず低迷した。ポインセチアは前半は入荷が少なく堅調に推移したが、後半は入荷が集中して値が崩れた。

12月

「切花」

取扱数量は前月比29.1%増、前年比2.5%増、平均価格は前月比12円高、前年比6円安となった。

入荷は、天候の影響で、一部の地域・品目で出荷時期が大きく遅れて品薄となったが、結果的には昨年を若干上回った。

相場は、クリスマスの時期を除いて全体的に弱く、年末近くになってようやく強保合となった。

主要品目別では、輪菊は前進傾向が続く中、単価安が目立った。スプレー菊は下旬に若干持ち直したが、総じて弱かった。バラはクリスマス需要により赤系を中心に人気が集まった。ガーベラもクリスマスを中心に赤・茶系の品種に引き合いが強かったが、それ以外の時期は弱保合。チューリップは弱めに推移したが、年末にかけて若干持ち直した。

「鉢物」

取扱数量は前月比2.5%減、前年比6.2%増、平均価格は前月比171円高、前年比56円安となった。

入荷は、らん鉢、観葉植物が少な目だったもののそのほかは順調であった。

相場は、高安まちまちの展開。

主要品目別では、シクラメンは入荷量が前年よりも若干増えて、相場は保合。ポインセチアは、後半に入荷が集中したため、厳しい相場となった。プリムラ類は潤沢入荷で軟調な相場となった。シンビジウムは入荷量が若干増えて、保合となった。